

怒りの
告発キャンペーン
第8弾

上杉隆(ジャーナリスト)と本誌取材班

官房機密費マスコミ汚染問題

我々は1円でも 外国人記者たちは

まるで他人の朝日新聞編集委員に批判続出、時事通信社OB掲示板では機密費に言及した人に「お

.....。これが普通の人の感覚だろう。

朝日新聞が自社の記者に対して、機密費の受け取りなどしないよう厳しく教育し、律してきたことは間違いない。だが、機密費は「渡す」権力側だけの問題

OB記者同士が大げんか

時事通信社のOB組織「社友会」の運営するネット掲示板では、さらにショッキングな「事件」が起きていた。

モスクワ支局長や外信部長を歴任した元時事通信

記者の中澤孝之氏は、『週刊ポスト』を読み、時事にも疑いがかけられていること、それに対して時事が「いい加減な回答」をしていることを知り、掲示板にこう投稿した。「わが社の歴代の政治部記者、政治部長は、天地神明に誓って、時の政権から賄賂めいたもの(官房機密費の一部と思われるもの)をもらったこととはないと、断言できるか」

ではない。「受け取る」側のメディア自身の問題なのだ。メディアは自ら説明責任を果たすべきであり、朝日だけがその責任を免れるわけではない。視聴者の反応は、当然すぎるほど当然である。

ところが、何度投稿してもこの書き込みは、なぜか掲載されなかった。中澤氏が会に確認したところ、掲示板の管理者が掲載を認めなかったという。

そしてしばらくたった日の深夜、時事通信社の「元政治部長」の名を名乗る人物から中澤氏のもとに電話があった(中澤氏も面識のある人物だが、面会して話したのではないため、「名乗る人物」としておく)。すると、その人物はいきなり罵詈雑言を浴びせてきたという。

「賄賂をもらったとはなんだ!」「近くにいたらお前をぶん殴ってやるところだ」「気でも狂ったのか、こんなことを書きやがっ